

教員だった父、佐々木貞三さん(没年不詳、83歳で逝去)と母、ユミさん(同、93歳で同)の6人兄妹の長女として青森市内で生まれ育ちました。同市内の女学校に進学。専修科を経て1945(昭和20)年教員資格を取得して卒業しました。

青森県奥津軽地方の今別尋常小学校に赴任という矢先、米軍の空襲に遭って青函連絡船が沈没したことを父親が知って青森県庁に辞令を返還し、教壇に立つことはなかったそうです。

1948(同23)年、親せきの紹介で日本電電公社に勤めていた3歳年上の榎雄さん(当時24歳、平成15年83歳で逝去)と見合い結婚しました。

通信技師だった榎雄さんは、電電公社の技術養成研修所講師を経て2年後、東京都内に異動。以来、退職まで首都圏各地で勤めました。

10回くらい引越したそうです。1970(昭和45)年ごろ、調布市内にマイホームを建て、専業主婦として長男、謙一さん(67)を育てる一方、戦後の疎開時代に覚えた洋裁の腕で自分の洋服を仕立てて余暇を楽しむなど充実した生活だったそうです。

仕事が趣味の榎雄さんで



したが、定年退職後は市民農園で野菜作りを楽しむ活動をし、調布市内の登山愛好会に入会して関東各地の山に出掛けるなど活動的だったそうです。

重子さんは榎雄さんのお弁当を作ったり、下見登山に付き合うように。「私は登山の会に入っていなかったから、下見の時だけ一緒に行ったんですよ。上高地のかっぱ橋のところの山小屋に一泊したり...」。

78歳の秋の日、脚立に上がって玄関の電灯のかさを掃除しようとした榎雄さんが転倒。それがきっかけで5年間の入院生活のちに先立つことに。

謙一さんは、52歳で調布市職員を早期退職後、あこがれの北海道をバイク旅行で訪れるうち、2006(平成18)年に東川に移住し木工クラフトの工房を始めました。調布市内で一人暮らしだった重子さんでしたが、6年後同居するため

に新築したという今の新居に転居し、「定年になったら2人で旅行しようかなと思っていたんだけど...」という北海道に移住することに。「タヌキも見たことない」と言う重子さんですが、今年初めてコハクチョウの群れを見ることが出来たそうです。

俳句

囀りやあふれ出るかに絵を描く子
切り株にひこばえ育つ桜かな
変わる雪形の一面秘密基地
初蝶の天に昇らむとしてひかり浴び
あいさつの練習しきり入園式
衛星を耕せ万馬従へて
弱虫に羽あり春風に浮力あり
苗にしてすでにトマトの香を放つ
実によく笑う娘らつくしんぼ
兜太逝く寒煙太く天空へ
日脚伸び体内時計追いつかず
母恋し少年はるの夜の公衆電話
観桜の誘いあり古き友より
東風吹きて肩甲骨の調整中
梅小鉢顔をズームに品定め
桜散る君と並んでかりんとう



若田 郁
本田 咲
佐々木 里え
斎藤 夕桜
山内 みゆ
由川 真人
小林 ろば
杉山 ひろのり
保科 なほ
徳光 吐苦
杉山 りつ
こばやし 星来
横田 則子
高瀬 潤
石澤 清宏
三島 智